

# 巻 頭 言

学 長 溝 上 泰

鳴門教育大学情報処理センターは、1992（平成4）年4月に設置され、中央処理装置室、教育用端末室、共同利用端末室、特殊端末室、センター長室、教官室、事務室などが完備した情報処理センター新館が竣工したのは、1994（平成6）年10月のことでした。情報処理センターは、助教授1名、助手1名、技術補佐員1名、事務官1名の配置のもとに、本学における学術研究及び情報処理教育に資するほか、図書館文献検索等の学内情報資源の共有化の促進を図り、さらには、学外との学術情報の交換を行うことを目的として、本学における教育・研究の「ランフライン」の役割を果たしてきています。

現在、情報通信技術による産業・社会構造の変革が世界規模で急激に進行しています。このような状況のもと、コンピューターのハードウェア、ソフトウェア及び通信などを基盤とする、情報システム、情報ネットワークにおける技術の開発と利用は、本学においても、不可避の緊要な課題であります。全学的情報化推進組織の整備、事務手続き等の簡素化を図るコンピューター活用の義務化、e-ラーニングの実施、ネットワークを利用した遠隔講義システムの開発、情報リテラシー教育や不正アクセスなどに対するセキュリティの確立などが急がれています。また、学校教育の場においても、各学校にコンピューターが整備され、総合的な学習の時間や各教科の授業などにおいても、コンピューターを活用した教育が日常的となり、その質的充実が大きな課題となっています。

このたび、情報処理センターの機関誌として、『鳴門教育大学情報教育ジャーナル』創刊号が刊行される運びとなりました。これまで、1995（平成7）年3月に『情報処理センター広報』創刊号、1996（平成8）年10月に第2号が刊行されましたが、それ以後は、諸般の事情で刊行が途絶えていました。新たに刊行される『鳴門教育大学情報教育ジャーナル』は、『情報処理センター広報』が「広報誌」としての性格が強いものであったのとは異なって、情報処理に関する研究、情報処理教育に関する研究、情報教育に関する実践研究等の論考を掲載する、「学術研究誌」としての性格が前面に強く打ち出されています。このような機関誌が刊行されることは、本学にとってまことに画期的なこと、喜ばしいことであります。『鳴門教育大学情報教育ジャーナル』が創刊されるにあたって、ここに至るまでの関係各位のご尽力に対しまして、心より敬意を表する次第であります。

本機関誌の投稿要領を読みますと、附属学校園も含めた本学教職員だけでなく、学部卒業生、大学院修了生、地域の学校や教育機関等の共同研究者、外国人留学生など、本学に関係する広範囲の人たちも投稿することができるよう配慮されています。今後は、本学教職員の論考を中心としながらも幅広い投稿者を得て、『鳴門教育大学情報教育ジャーナル』が、情報処理研究、情報教育実践・研究等の発信基地として、ますます充実・発展していくよう期待し、祈念してやみません。

# 『鳴門教育大学情報教育ジャーナル』創刊に寄せて

情報処理センター長 世 羅 博 昭

平成14年3月、情報処理センター長を拝命するときに、溝上泰学長から、「情報処理センターは、ハード面はほぼ整ってきたので、ソフト面の充実を図って、情報処理センターの活動を全学的なものにしてほしい。」というご指示がありました。それを受けて、情報処理センター所属教官とも相談するなかで、全学的な情報化推進に関わる組織をつくること、情報処理センターの学内向け広報活動を充実させること、情報処理センターの機関誌を刊行すること、ネットワークを利用した授業観察システムの確立を図ることなどを目標に掲げました。

初年度である2002（平成14）年度は、「中期目標」をどのように設定するか、その検討に追われました。2003（平成15）年次に入って、情報処理センター運営委員会に、最初は、1996（平成8）年10月に『情報処理センター広報 第2号』が刊行されたまま途絶えていた「広報誌」の復刊を提案しましたが、さまざまなご意見を受けて、「広報誌」ではなく、「学術研究誌」として新たな機関誌を刊行することになりました。情報処理センター運営委員の皆さんに心より感謝とお礼を申し上げます。

『鳴門教育大学情報教育ジャーナル』には、巻末に掲げた「投稿要領」にもあるように、情報教育に関する実践・研究、情報機器を活用した授業実践・研究、情報処理に関する実践・研究に関する論文が投稿できるようにしました。また、投稿できる者も、附属学校園の教職員（元教職員も含む）及びその共同研究者、本学の修士・博士課程の大学院生、本学学部卒業生・大学院修了生、その他編集委員会が必要と認めた者というように、かなり幅広い範囲の人を位置づけました。いずれも、「開かれた情報教育の機関誌」としたいという考えから、そのようにしたものです。

『鳴門教育大学情報教育ジャーナル 創刊号』には、研究論文8編、実践報告4編の投稿がありました。このたびの投稿論文は、情報処理に関する実践・研究1編を除いて、あとはすべて、情報教育に関する実践・研究、及び情報機器を活用した授業実践・研究論文でした。大学、附属学校園それぞれの場において、情報機器を活用した授業実践や情報教育に関する実践・研究が常日頃より意欲的かつ豊かに展開されていることが浮き彫りになりました。ご投稿いただきました皆さまのお蔭で、『鳴門教育大学情報教育ジャーナル 創刊号』を実り豊かなものとして刊行することができました。心よりお礼を申し上げます。

平成16年度からは、全学的な情報化推進組織も整備され、セキュリティポリシーの確立を目指した取り組みもスタートします。また、この3月、文部科学省から、ネットワークを利用した授業観察システム整備のために高額な予算の示達もありました。今後、ますます情報処理センターを中心とした教育・研究活動の進展が求められてきます。そのような状況のもとで、『鳴門教育大学情報教育ジャーナル』が情報教育実践・研究の発信基地として、重要な位置を占めてくると思います。本機関誌が今後さらに充実・発展していくことを心より念じています。